

提言第 3 号 注射剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析
事例番号：事例1
< 事例概要 > ・肺がんで化学療法中の 70 歳代男性。造影CT 検査室で発症。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。 ・原因薬剤は、造影剤のイオパミロン。 ・過去にイオパミロンを 3 回使用したが、アレルギー症状の出現無。 ・イオパミロンを注入後、血管走行に沿った発赤が出現したが、診察時には発赤は消失。約10 ～ 15 分経過し検査終了。更衣後、廊下で意識消失。16 分後にアドレナリン1 mg を静脈内注射し、救急処置を実施するが心拍再開せず、約 1 時間半後に死亡。